

八尾市立病院改革プランの実施状況／平成22年度(上半期)

資料 2

1. 診療体制及び診療内容の充実による収益確保

改革プランの項目	取り組み内容	目標値又は目標とした状況	進捗に至る具体的な方法など	実施状況	取り組みの評価・課題等				
(1) 医師確保	・医師の採用 (診療方針・機能、医療ニーズに対応した必要な診療科医師の重点確保)	H22年4月1日現在の医師数 正職員 67人 後期研修医 14人 ⇒H23年4月1日現在 正職員 69人 後期研修医 15人	・各大学医局への要請(継続) ・医師派遣会社の活用(継続) ・研修教育の充実化による研修医の確保 ・勤務条件の整備・院内保育の充実	・H22年4月1日現在 正職員 65人、嘱託16人(初期研修医を除く) ・H22年10月1日現在 正職員 66人、嘱託16人(初期研修医を除く) ・大学病院等への訪問活動の継続	・H22年4月1日の医師数は、計画と同数の81人となり、その後、退職も発生したが、新たな医師の確保に努めた結果、10月1日には82人となっている。 ・引き続き、内科を中心に医師の採用に向け、管理者はじめ幹部による大学への働きかけを行う。なお、H23年4月から、呼吸器外科医師の招聘を予定している。				
(2) 医師の労働環境及び勤務条件の改善	・院内保育所の設置・運営	・女性医師の保育ニーズの充足 ・利用者(医師)の勤務に対応した保育時間の確保	・院内保育所運営(継続実施)	・H22年10月現在、定員5人に対し入所児童5人	・希望者5人が全員入所しており、保育ニーズは充足されている。				
	・医師事務作業補助者の採用	・医師事務作業補助者数 8人	・医師事務作業補助体制加算のアップ(50対1)に向け、8人を目標に募集	・H21年10月⇒6人(嘱託4、臨職2) ・スタッフの募集を継続	・退院サマリの作成等、事務作業の効率化に寄与している。医師事務作業補助体制加算の要件を考慮し8人を目標としているが、専門性の高い業務でもあり、目標数の採用には至っておらず、引き続き募集を行う。				
	・医師の人事評価の仕組みづくり、業績を反映した医師の手当の支給方法の実現	・人事評価の具体的な実施方法の策定 ・業績を反映した手当の支給方法の確立	・ワーキンググループによる制度の検討 ①人事評価制度の構築 評価項目・評価方法・実施時期等 ②業績に対応した手当の支給方法	・ワーキング会議を開催(11月)	・医師の参加によるワーキング会議を11月に開催した。今後、アンケートを実施し評価基準や評価方法等の課題を検討する。				
(3) 地域病院との医療連携の強化	・市内12病院及び診療所との連携	・喫緊課題の解決に向けた協議の継続	・市内12病院が参加する病院事務長会議(2カ月毎)において検討 ・がん治療の連携バスに関するアンケート、「心臓コール」救急患者の受入 ・八尾市医師会との意見交換及び働きかけ(随時) ・大阪府医師会勤務医部会第4ブロック会議(中河内地区)(年3回)における情報交換	・八尾市病院事務長会、大阪府医師会勤務医部会第4ブロック会議を定期開催 ・医療機関に対するアンケート調査(がん治療の連携バス)の実施、 ・「心臓コール」の開始(8月) ・地域医療合同研究会(4/17、11/6)	・大阪府医師会勤務医部会における情報交換と共に、市内病院事務長会議を定期的に開催し、市内病院間の連携(病病連携)の課題等について協議している。 ・地域医療連携の一環として、市内の医療機関に対し、がん治療の連携バスに関するアンケート調査を実施した。また、「心臓コール」による救急患者の受入れも開始するなど連携強化に努めている。				
(4) 診療科目の充実	・患者ニーズに対応した診療科目の設置	・患者ニーズに対応した診療科目の設置	・今後の医療ニーズに対応するとともに、採用する医師の専門分野等を考慮して検討	・H23年度に(仮称)呼吸器センター設置予定	・H23年度に呼吸器外科医師の招聘を予定しており、引き続き医師の獲得と共に、医療ニーズに対応した医師の必要数の精査を行う。				
(5) 患者数を増やす取り組み (救急医療)	・救急取扱い患者数の増	・救急患者数 年間 22,122 件 ・うち救急搬送受入数 年間 3,680 件 ・うち入院数 年間 3,072 件	・断らない救急を目指し、ベッド確保(ベッドコントロール) ・救急診療科、救急当直医の再編に向けた取り組み ・「心臓コール」の開始(H22年8月)	・上半期実績 (人)				・上半期の救急患者数は新型インフルエンザが流行した昨年度に比べ、9.0%の減となったが、断らない救急を目指した取り組みにより、救急搬送件数は対前年度で36.0%の増、また救急のうち入院患者数も14.8%の増となり、進捗率はいずれも50%を超えた。 ・H22年度の新たな取り組みとして、循環器疾患の救急患者を24時間体制で受け入れる「心臓コール」を開始し、8月から救急患者の受入れを行っている。	
				救急患者数	H22	進捗率(%)	H21		H22-H21
(地域医療連携)	・紹介患者数の増	・初診紹介患者数 年間 12,653 件 ・紹介率 年間 49.6 % ・逆紹介率 年間 39.2 %	・地域医療連携スタッフの増員による体制強化、並びに医師を伴う訪問活動の充実強化 ・診療機能の充実(紹介への確実な対応)	・上半期実績 (人)				・昨年度は紹介患者数、紹介率とも目標を下回ったが、地域医療連携の取組みにより、今年度上半期の初診紹介患者数については、前年度を517件(9.6%)上回り、紹介率も、前年度実績やH22年度の目標を上回る50.9%に上昇した。 ・地域医療連携室では、スタッフを1名増員し、訪問活動に力を入れた。また、医師を伴った訪問についても、10月以降、計画的に行っている。	
				初診紹介患者数	H22	進捗率(%)	H21		H22-H21
				(%)					
				紹介率	H22	H22-目標	H21		H22-H21
		逆紹介率	H22	H22-目標	H21	H22-H21			

改革プランの項目	取り組み内容	目標値又は目標とした状況	進捗に至る具体的な方法など	実施状況	取り組みの評価・課題等																																													
			<ul style="list-style-type: none"> <li>当院の診療機能のPR <ul style="list-style-type: none"> <li>○広報誌等の内容充実、配布圏拡大</li> <li>○市民医療公開講座、開院60周年記念事業の実施</li> <li>○院内外への紹介情報、診療データの公表、取材への協力等</li> <li>○市政だよりにおける特集記事</li> <li>○地域医療合同研究会</li> </ul> </li> </ul>	<p>・上半期実績 (回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th></th> <th>H21</th> <th>H22-H21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域連携室訪問回数</td> <td>1,024</td> <td></td> <td>242</td> <td>782</td> </tr> <tr> <td>うち医師による訪問</td> <td>16</td> <td></td> <td>11</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p>・市政だよりの活用 特集記事(10月号)、「市立病院だより」(市政だより12月号、1月号と合冊)</p> <p>・医療機能のPR 開院60周年記念事業(10/2)、市民医療公開講座(6/26) 「地域連携室だより」(隔月900部)、「診療のご案内」(年間600部)配布、FMちゃおへの出演 地域医療機関を対象に地域医療合同研究会を開催(4/17、11/6)</p>		H22		H21	H22-H21	地域連携室訪問回数	1,024		242	782	うち医師による訪問	16		11	5	<p>・病院のPRについては、従来の広報誌の発行、市民医療公開講座の継続に加え、下半期に入り、開院60周年記念事業の開催、市政だよりへの特集記事の掲載、SPCによる「市立病院だより」(市政だよりと合冊)の発行など、PRに努めている。</p> <p>・市民医療公開講座は、今年度は実施済みが1回だが、今後3回(12/18、2/5、3/5)実施予定である。</p>																														
	H22		H21	H22-H21																																														
地域連携室訪問回数	1,024		242	782																																														
うち医師による訪問	16		11	5																																														
(稼働率向上)	高度医療機器の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>CT 検査件数 年間 11,880 件</li> <li>MRI 検査件数 年間 4,400 件</li> <li>マンモグラフィ 検査件数 年間 2,880 件</li> <li>超音波検査件数(総数) 年間 8,132 件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域医療期間へのPR活動</li> <li>スタッフのスキルアップによる予約枠の拡大</li> <li>土曜CTの院内・院外周知徹底、乳がん検診の充実</li> <li>MRI増設による検査待ち日数の短縮、MRIによる脳ドックの拡張</li> <li>電子カルテシステム更新に伴うCT、MRIの予約方法・検査体制の見直し</li> <li>超音波等検査実施状況と検査枠に関する情報について院内への周知</li> <li>スタッフ確保による検査体制の維持</li> </ul>	<p>・上半期実績 (件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>進捗率(%)</th> <th>H21</th> <th>H22-H21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT 検査件数</td> <td>6,022</td> <td>50.7</td> <td>6,066</td> <td>▲ 44</td> </tr> <tr> <td>MRI 検査件数</td> <td>2,549</td> <td>57.9</td> <td>2,013</td> <td>536</td> </tr> <tr> <td>マンモグラフィ</td> <td>1,155</td> <td>40.1</td> <td>1,266</td> <td>▲ 111</td> </tr> </tbody> </table> <p>(件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>進捗率(%)</th> <th>H21</th> <th>H22-H21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>超音波検査</td> <td>4,251</td> <td>52.3</td> <td>3,723</td> <td>528</td> </tr> <tr> <td>(腹部)</td> <td>2,165</td> <td></td> <td>1,924</td> <td>241</td> </tr> <tr> <td>(心臓)</td> <td>1,328</td> <td></td> <td>1,161</td> <td>167</td> </tr> <tr> <td>(その他)</td> <td>758</td> <td></td> <td>638</td> <td>120</td> </tr> </tbody> </table>		H22	進捗率(%)	H21	H22-H21	CT 検査件数	6,022	50.7	6,066	▲ 44	MRI 検査件数	2,549	57.9	2,013	536	マンモグラフィ	1,155	40.1	1,266	▲ 111		H22	進捗率(%)	H21	H22-H21	超音波検査	4,251	52.3	3,723	528	(腹部)	2,165		1,924	241	(心臓)	1,328		1,161	167	(その他)	758		638	120	<p>・CT検査件数は、対前年度で若干の減となったが、進捗率は50%を上回った。 MRI検査件数は、前年度末の増設により、対前年度で536件(26.6%)の増となった。検査待ち日数の短縮という効果は現れており、検査体制の充実により更なる件数増を目指す。 マンモグラフィは、対前年度111件(8.8%)の減となったが、上半期の乳がん検診の件数が前年度を下回ったことが主な要因となっている。</p> <p>・超音波検査については、診療科への利用呼びかけにより、全体で対前年度528件(14.2%)の伸びとなり、目標に対する進捗率も52.3%となった。</p>
	H22	進捗率(%)	H21	H22-H21																																														
CT 検査件数	6,022	50.7	6,066	▲ 44																																														
MRI 検査件数	2,549	57.9	2,013	536																																														
マンモグラフィ	1,155	40.1	1,266	▲ 111																																														
	H22	進捗率(%)	H21	H22-H21																																														
超音波検査	4,251	52.3	3,723	528																																														
(腹部)	2,165		1,924	241																																														
(心臓)	1,328		1,161	167																																														
(その他)	758		638	120																																														
(6) 診療単価の向上 (手術)	手術件数の増、内視鏡手術の増	<ul style="list-style-type: none"> <li>手術室において実施するもの 年間 3,446 件</li> <li>うち全身麻酔手術 年間 1,836 件</li> <li>うち腹腔鏡下手術 年間 99 件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>紹介元医療機関へのPR</li> <li>病院ホームページへの診療科別手術件数掲載など</li> <li>市民医療公開講座における手術のPR</li> <li>呼吸器外科医師の招聘による手術件数の増加</li> </ul>	<p>・上半期実績 (件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>進捗率(%)</th> <th>H21</th> <th>H22-H21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手術件数</td> <td>1,794</td> <td>52.1</td> <td>1,718</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>うち全身麻酔手術</td> <td>1,065</td> <td>58.0</td> <td>895</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>うち腹腔鏡下手術</td> <td>89</td> <td>89.9</td> <td>54</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> <p>※中央手術室において実施する手術</p>		H22	進捗率(%)	H21	H22-H21	手術件数	1,794	52.1	1,718	76	うち全身麻酔手術	1,065	58.0	895	170	うち腹腔鏡下手術	89	89.9	54	35	<p>・中央手術室における手術件数は、対前年度76件(4.4%)増となったが、全身麻酔手術が対前年度19.0%、腹腔鏡下手術が対前年度64.8%の大幅増となっており、より大きな手術、高度な手術の件数アップは入院診療単価の向上にも繋がっている。</p>																									
	H22	進捗率(%)	H21	H22-H21																																														
手術件数	1,794	52.1	1,718	76																																														
うち全身麻酔手術	1,065	58.0	895	170																																														
うち腹腔鏡下手術	89	89.9	54	35																																														
(DPC)	DPCの検証、DPCに対応した検査の外来へのシフト	<ul style="list-style-type: none"> <li>包括部分の見直しによる収益単価の向上</li> <li>主要検査の外来へのシフト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DPCデータ分析システムを活用した分析及び情報提供</li> <li>クリニカルパスの整備</li> <li>CT、MRI、その他検査について外来で実施可能なものは、外来において実施</li> </ul>	<p>・DPCワーキングチームにより疾病ごとの分析・検討を実施し、必要に応じ診療科に情報提供(DPC新規分類における病名妥当性の検証等)</p> <p>・診療科別にヒアリング、改善提案(パスアセスメント)を実施(11月～) 11/29 消化器内科 泌尿器科 12/1 整形外科 血液内科</p> <p>・上半期 検査件数に占める入院検査件数の割合(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th></th> <th>H21</th> <th>H22-H21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT検査</td> <td>13.4</td> <td></td> <td>14.8</td> <td>▲ 1.4</td> </tr> <tr> <td>MRI検査</td> <td>9.1</td> <td></td> <td>10.1</td> <td>▲ 1.0</td> </tr> <tr> <td>超音波検査</td> <td>12.3</td> <td></td> <td>12.7</td> <td>▲ 0.4</td> </tr> </tbody> </table>		H22		H21	H22-H21	CT検査	13.4		14.8	▲ 1.4	MRI検査	9.1		10.1	▲ 1.0	超音波検査	12.3		12.7	▲ 0.4	<p>・治療内容の高度化、DPCワーキングチームの取り組みにより、入院、外来とも診療単価は上昇しており、引き続き、外部へのコンサルティングによる評価を実施するとともに、ワーキングチームによりデータ分析、診療科に対する情報提供を行う。</p> <p>・DPCにおける包括対象の検査等のうち、可能なものを外来で実施し、請求に反映させるよう取り組んでおり、主要な検査の件数に占める入院検査の比率は、前年度より低下している。</p>																									
	H22		H21	H22-H21																																														
CT検査	13.4		14.8	▲ 1.4																																														
MRI検査	9.1		10.1	▲ 1.0																																														
超音波検査	12.3		12.7	▲ 0.4																																														

改革プランの項目	取り組み内容	目標値又は目標とした状況	進捗に至る具体的な方法など	実施状況	取り組みの評価・課題等																									
(7) 特色のある医療の実施 (がん診療)	・がん診療の充実	・がん相談支援センター 年間 1,550 件  ・緩和ケアチーム活動件数 年間 50 件 (新規介入件数)	・化学療法科の充実 ・医療機関、市民へのPR活動 ・がん相談支援センター相談スタッフの充実 ・緩和ケアチームのスタッフ充実 ・がん診療地域連携パス	・化学療法科医師増員(4月) ・呼吸器外科医師の招聘の取り組み ・アンケート調査(がん治療の連携パス)の実施 ・上半期実績 (件) <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H22</td> <td>進捗率(%)</td> <td>H21</td> <td>H22-H21</td> </tr> <tr> <td>がん相談件数</td> <td>639</td> <td>41.2</td> <td>760</td> <td>▲ 121</td> </tr> <tr> <td>〃 (新規)</td> <td>305</td> <td></td> <td>252</td> <td>53</td> </tr> </table> ・緩和ケアチーム活動 (件) <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H22</td> <td>進捗率(%)</td> <td>H21</td> <td>H22-H21</td> </tr> <tr> <td>新規介入件数</td> <td>26</td> <td>52.0</td> <td>29</td> <td>▲ 3</td> </tr> </table>		H22	進捗率(%)	H21	H22-H21	がん相談件数	639	41.2	760	▲ 121	〃 (新規)	305		252	53		H22	進捗率(%)	H21	H22-H21	新規介入件数	26	52.0	29	▲ 3	・地域がん診療拠点病院として、化学療法科の医師増員など診療体制の充実を図っており、がん患者数の増加が続いている。がん相談支援センターの延べ相談件数は前年度に比べ減少したが、新規の相談件数は20%以上増加した。  ・開院60周年記念事業において、がん治療をテーマとしたシンポジウムを行うとともに、「市立病院だより」(市政だより12月号と合冊)において、がん治療の実績、検査・診断機能、がん相談支援センター、緩和ケア等、がん診療のPRを行った。 さらに、地域医療連携の充実に向け、がん診療連携パスのアンケート調査などの取り組みを進めている。
	H22	進捗率(%)	H21	H22-H21																										
がん相談件数	639	41.2	760	▲ 121																										
〃 (新規)	305		252	53																										
	H22	進捗率(%)	H21	H22-H21																										
新規介入件数	26	52.0	29	▲ 3																										
(周産期医療)	・周産期医療の充実	・分娩取扱い件数 年間 690 件 ・緊急母体搬送件数 年間 52 件 ・NICU稼働率の向上 年間 83.3 %	・分娩件数の増加 ・地域周産期母子医療センターとしてOGCS(産婦人科診療相互援助システム)、NMCS(新生児診療相互援助システム)への協力 ・NICUの効率的運用	・上半期実績 (件) <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H22</td> <td>進捗率(%)</td> <td>H21</td> <td>H22-H21</td> </tr> <tr> <td>分娩取扱い件数</td> <td>359</td> <td>52.0</td> <td>355</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>緊急母体搬送件数</td> <td>9</td> <td>17.3</td> <td>12</td> <td>▲ 3</td> </tr> </table> (%) <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H22</td> <td>H22-目標</td> <td>H21</td> <td>H22-H21</td> </tr> <tr> <td>NICU病床利用率</td> <td>71.9</td> <td>▲ 11.4</td> <td>88.4</td> <td>▲ 16.5</td> </tr> </table>		H22	進捗率(%)	H21	H22-H21	分娩取扱い件数	359	52.0	355	4	緊急母体搬送件数	9	17.3	12	▲ 3		H22	H22-目標	H21	H22-H21	NICU病床利用率	71.9	▲ 11.4	88.4	▲ 16.5	・分娩件数は昨年度とほぼ同水準となり、進捗率は52.0%となったが、更なる件数増加のためには、医師の増員のみならず、外来診療スペースの拡大など施設整備が課題である。 ・NICUの上半期の病床利用率は71.9%となり、対象患者の減により、前年度実績及び目標を下回った。 ・OGCS、NMCSによる搬送受入れ件数は、周辺地域の病院の体制整備により減少傾向にあるが、受入れ条件を変更するなどの対応により、引き続き、地域周産期母子医療センターとしての役割を担っていく。
	H22	進捗率(%)	H21	H22-H21																										
分娩取扱い件数	359	52.0	355	4																										
緊急母体搬送件数	9	17.3	12	▲ 3																										
	H22	H22-目標	H21	H22-H21																										
NICU病床利用率	71.9	▲ 11.4	88.4	▲ 16.5																										
(8) 健診事業の充実	・人間ドック等実施件数の増	・人間ドック実施件数 年間 484 件	・水曜日の人間ドックにMRI脳ドックをオプションとして追加(H22年4月～) ・乳がん検診等、他の検診・健診の充実	・上半期実績 (件) <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H22</td> <td>進捗率(%)</td> <td>H21</td> <td>H22-H21</td> </tr> <tr> <td>人間ドック</td> <td>318</td> <td>65.7</td> <td>246</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td>乳がん検診</td> <td>462</td> <td></td> <td>525</td> <td>▲ 63</td> </tr> <tr> <td>子宮がん検診</td> <td>293</td> <td></td> <td>314</td> <td>▲ 21</td> </tr> <tr> <td>特定健診</td> <td>263</td> <td></td> <td>287</td> <td>▲ 24</td> </tr> </table>		H22	進捗率(%)	H21	H22-H21	人間ドック	318	65.7	246	72	乳がん検診	462		525	▲ 63	子宮がん検診	293		314	▲ 21	特定健診	263		287	▲ 24	・人間ドック件数は、4月からの脳ドックの実施により、対前年度72件増加し、進捗率は65.7%となった。 ・他の検診では、乳がん検診、子宮がん検診等の受診者が、それぞれ対前年度で減となったが、従来の市の検診に加え、女性特有のがん検診無料クーポンの利用者が見込まれるため、下半期の件数増に努める。
	H22	進捗率(%)	H21	H22-H21																										
人間ドック	318	65.7	246	72																										
乳がん検診	462		525	▲ 63																										
子宮がん検診	293		314	▲ 21																										
特定健診	263		287	▲ 24																										
(9) 診療報酬への反映	・新たな施設基準・加算算定の条件整備	・請求漏れの防止 ・新たな加算の取得	・地域医療機関への文書発行におけるルールの確立(診療情報提供書) ・算定漏れ防止のためのオリエンテーション ・新たな加算取得に向けた検討と現場への働きかけ	・SPC、地域医療連携室、医療事務部門からの働きかけ(診療情報提供料、指導管理料算定推進、総合入院体制加算取得のための治療率向上に向けた取り組み等) ・上半期実績 (件) <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H22</td> <td></td> <td>H21</td> <td>H22-H21</td> </tr> <tr> <td>診療情報提供料</td> <td>5,314</td> <td></td> <td>4,807</td> <td>507</td> </tr> <tr> <td>救急医療管理加算</td> <td>9,923</td> <td></td> <td>5,186</td> <td>4,737</td> </tr> </table>		H22		H21	H22-H21	診療情報提供料	5,314		4,807	507	救急医療管理加算	9,923		5,186	4,737	・診療情報提供料については、引き続き、算定件数の増加に向け、医事部門と地域医療連携室を中心に算定条件の周知等、現場への働きかけを強化する。 ・加算取得、算定漏れ防止に向け、事務部門のスキルアップを図るとともに、条件整備が必要なものは引き続き医療現場への働きかけを行う。										
	H22		H21	H22-H21																										
診療情報提供料	5,314		4,807	507																										
救急医療管理加算	9,923		5,186	4,737																										
	・査定減の防止	・レセプト返戻・減点の減 ・診療単価の上昇	・DPC請求に対応したDPC分析システムの活用 各種管理料算定漏れの検証⇒1-(6)	・第三者による診療報酬精度調査の実施 レセプトの平均査定率⇒0.20%(H22年度7月分まで)(10月現在)	・DPC分析ツールの活用、診療報酬精度調査委託により、診療報酬増加に努めた。また査定率については、診療報酬委員会に報告され、分析と指導を行って減少に努めている。																									
(10) 未収金防止の取り組み	・未収金の督促・未収金発生防止策の実施	・医業収益に対する窓口未収金の減	・電話・文書による督促 ・出産育児一時金の医療機関等への直接支払制度の活用 ・クレジットカード決済 ・債権管理条例の施行に対応した管理体制の検討	・上半期実績 H22上半期の督促件数⇒電話213件、文書111件 H21上半期の督促件数⇒電話246件、文書93件	・窓口対応、電話や文書による督促は、PFI事業者の定例業務として日常的に行っている。なお、主要な業務の要求水準・仕様の履行過程の確認として、H22年度については未収金の管理と督促関係事務について実施している。 ・クレジットカード決済は、H22年度上半期で、約3,800件、1億1,100万円の実績があった。(窓口支払件数の3.6%、窓口支払金額の19.3%)。																									

※「実施状況」欄における「進捗率(%)」は、改革プランで設定した平成22年度の年間目標に対する上半期の実績の割合。

「H22-目標」は、上半期の実績と改革プランの年間目標との差。また「H21」は、平成21年度上半期実績。

※「取り組みの評価・課題等」欄における「前年度」の実績は、特に注記が無い限り、前年度上半期の実績。

2. コスト削減の取り組み

改革プランの項目	取り組み内容	目標値又は目標とした状況	進捗に至る具体的な方法など	実施状況	取り組みの評価・課題等																																			
(1) 給与費	・給与費比率の抑制	・医業収益に対する職員給与費の割合  53.8%	・医業収益向上の取り組みと合わせ、相対的に職員給与費比率を抑制  ・看護師について、臨時職員等の採用の推進 ・時間帯や各職場の需要に応じた人員の適正配置  ・医師特殊勤務手当の見直し、超過勤務の抑制  ・看護師の2交代制の検討	・上半期実績 (％)	・上半期の医業収益は予算を若干上回った一方、職員給与費についても、院内の応援体制強化による看護師数の抑制等により予算を下回り、医業収益に対する職員給与費の割合は51.8%と、前年度、及びH22年度の目標より良化した。																																			
				<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H22-目標</th> <th>H21</th> <th>H22-H21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医業収益対職員給与費</td> <td>51.8</td> <td>▲ 2.0</td> <td>53.0</td> <td>▲ 1.2</td> </tr> </tbody> </table>			H22	H22-目標	H21	H22-H21	医業収益対職員給与費	51.8	▲ 2.0	53.0	▲ 1.2																									
	H22	H22-目標	H21	H22-H21																																				
医業収益対職員給与費	51.8	▲ 2.0	53.0	▲ 1.2																																				
	・職員の計画的採用	・年間を通じ、7:1基準看護等の条件を維持 ・新たな加算取得に向けた配置計画と採用	・稼働人員確保、非常勤職員等の随時採用の宣伝(ホームページ、市政だより、ハローワーク等) ・職員採用試験の複数回実施による速やかな欠員補充、内容の検討(試験内容、日程、年齢等)  ・柔軟な応援体制の継続  ・看護補助員の採用(PFI事業の見直しと共に、加算取得による収益向上を検討)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>職員数内訳</th> <th>H22.10.1</th> <th>22/4計画</th> <th>H21.10.1</th> <th>H22-H21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>66</td> <td>67</td> <td>62</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>287</td> <td>293</td> <td>283</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>その他職員</td> <td>76</td> <td>75</td> <td>72</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>【合計】</td> <td>429</td> <td>435</td> <td>417</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>嘱託・臨時職員</td> <td>89</td> <td>101</td> <td>99</td> <td>▲ 10</td> </tr> <tr> <td>【総合計】</td> <td>518</td> <td>536</td> <td>516</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	職員数内訳	H22.10.1	22/4計画	H21.10.1	H22-H21	医師	66	67	62	4	看護師	287	293	283	4	その他職員	76	75	72	4	【合計】	429	435	417	12	嘱託・臨時職員	89	101	99	▲ 10	【総合計】	518	536	516	2	・10月1日現在の正職員数は、医療ニーズに対応した医師、看護師、及び医療技術員の採用により、対前年度で12人の増となったが、嘱託及び臨時職員を含めた職員数は、対前年度で2人の増となっている。 また、定数外職員の割合については、嘱託等の採用数が減少したことから、対前年度で2.0%の減となった。 今後の病床利用率の変動に対しては、院内の応援体制、臨時職員の採用等により柔軟に対応する。 ・また、今年度は採用試験を年3回実施することとし、第1回目の採用試験により、10月1日付けで8名を採用した。  ・職員募集については、従来の市政だより等に加え、地域の求人情報誌を活用して職員募集を行っている。
職員数内訳	H22.10.1	22/4計画	H21.10.1	H22-H21																																				
医師	66	67	62	4																																				
看護師	287	293	283	4																																				
その他職員	76	75	72	4																																				
【合計】	429	435	417	12																																				
嘱託・臨時職員	89	101	99	▲ 10																																				
【総合計】	518	536	516	2																																				
(2) 材料費	・薬品・診療材料費の抑制	・医業収益に対する材料費の割合  19.8%	・医業収益向上の取り組みと合わせ、相対的に材料費比率を抑制  ・共同購入品数の増 ・診療科の協力による価格交渉 ・診療材料費の市場価格調査、単価交渉 ・在庫管理、使用の適正化	・上半期実績 (％)	・上半期の医業収益に対する材料費の比率は、目標を0.2%下回る19.1%で、内訳は、薬品費が13.2%(前年度13.3%)、診療材料費が5.9%(同6.0%)であった。 調達コスト削減に向け、引き続き医療現場の協力のもと、医療安全にも配慮しながら価格交渉や同種同効品への切替等に取り組む。																																			
				<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H22-目標</th> <th>H21</th> <th>H22-H21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医業収益対材料費</td> <td>19.1</td> <td>▲ 0.7</td> <td>19.3</td> <td>▲ 0.2</td> </tr> </tbody> </table>			H22	H22-目標	H21	H22-H21	医業収益対材料費	19.1	▲ 0.7	19.3	▲ 0.2																									
	H22	H22-目標	H21	H22-H21																																				
医業収益対材料費	19.1	▲ 0.7	19.3	▲ 0.2																																				
	・後発医薬品の積極的採用によるコスト削減	・採用率(品目数) 11.5% ・使用率(出庫額) 15.0%	・薬剤部から医師への働きかけを継続 ・新発品の値引率の向上と後発品による費用抑制のメリットの双方を考慮しながら積極的に拡大	<table border="1"> <thead> <tr> <th>購入における取り組み(SPC)</th> <th>H22</th> <th>H22-目標</th> <th>H21</th> <th>H22-H21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採用率</td> <td>11.1</td> <td>▲ 0.4</td> <td>11.2</td> <td>▲ 0.1</td> </tr> <tr> <td>使用率</td> <td>7.9</td> <td>▲ 7.1</td> <td>7.6</td> <td>0.3</td> </tr> </tbody> </table>	購入における取り組み(SPC)	H22	H22-目標	H21	H22-H21	採用率	11.1	▲ 0.4	11.2	▲ 0.1	使用率	7.9	▲ 7.1	7.6	0.3	・また、調達コストについては、従来からのSPCや実施企業との交渉に加え、コスト削減に向けた具体的な取り組みについてSPCから提示を受け、その進行管理を行うモニタリングの仕組みを構築し、H22年度から運用している。																				
購入における取り組み(SPC)	H22	H22-目標	H21	H22-H21																																				
採用率	11.1	▲ 0.4	11.2	▲ 0.1																																				
使用率	7.9	▲ 7.1	7.6	0.3																																				
(3) PFI事業の検証	・市立病院PFI事業検証のための実態調査・分析(H21年度)	・検証結果を踏まえた業務見直し	・病院PFI事業検証のための実態調査・分析業務報告書(H21.12.28)の指摘に対する、H22年度の対応  (1)調達コストの改善 (2)食事の提供業務の一本化 (3)看護補助業務の直営化 (4)植栽管理業務の見直し (5)環境衛生管理業務の見直し (6)総合医療情報システムの運営、保守管理業務の見直し (7)モニタリングシステムの見直し (8)病院事務組織・体制の見直し	・上半期実績 (％)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 診療材料・薬剤の調達コストの改善→2-(2)材料費</li> <li>(2) 食事の提供業務 →H23年4月からのPFI事業への一本化に向け労働組合と協議中</li> <li>(3) 看護補助業務 →H23年4月からの直営化に向けSPCと協議中(H22年12月より看護補助者の募集を行う)</li> <li>(4) 植栽管理業務、(5)環境衛生管理業務 →業務内容、サービス対価の見直しに向けSPCと一定の合意(H23年度実施)</li> <li>(6) 総合医療情報システムの運営、保守管理業務 →システム更新に向けCEの常駐体制につきSPCと協議中</li> </ul>																																			
				<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H22-目標</th> <th>H21</th> <th>H22-H21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採用率</td> <td>11.1</td> <td>▲ 0.4</td> <td>11.2</td> <td>▲ 0.1</td> </tr> <tr> <td>使用率</td> <td>7.9</td> <td>▲ 7.1</td> <td>7.6</td> <td>0.3</td> </tr> </tbody> </table>			H22	H22-目標	H21	H22-H21	採用率	11.1	▲ 0.4	11.2	▲ 0.1	使用率	7.9	▲ 7.1	7.6	0.3	・PFI事業における業務要求水準の見直しについては、環境衛生管理業務・植栽管理業務が、H23年度の業務内容、サービス対価の見直しに向け、SPCと一定の合意に至っており、現在は、食事の提供業務(PFI事業への一本化)、看護補助業務(直営化に向けた協議)、総合医療情報システムの運営・保守管理業務(電子カルテ更新後の保守管理の検討)について作業を進めている。  ・モニタリングシステムの見直しでは、業務の結果に主眼を置いた従来のモニタリングに加え、定期的に主要な業務の要求水準・仕様の履行過程の確認を行うこととし、H22年度は、「医療事務業務」のうち未収金の適切な管理について実施する。 また、SPCから毎年度提示される事業計画について、その進行管理を行うモニタリングの仕組みを構築し、H22年度から運用している。																			
	H22	H22-目標	H21	H22-H21																																				
採用率	11.1	▲ 0.4	11.2	▲ 0.1																																				
使用率	7.9	▲ 7.1	7.6	0.3																																				

改革プランの項目	取り組み内容	目標値又は目標とした状況	進捗に至る具体的な方法など	実施状況	取り組みの評価・課題等												
				(7)モニタリングシステム ①従来のモニタリングに加え、主要な業務の要求水準・履行過程の確認(H22は医療事務業務のうち未収金の管理) ②セルフモニタリングの精度向上のため、SPCが外部の第三者に委託し診療報酬精度調査を実施 ③SPCから毎年度提示される事業計画について、進行管理を行うモニタリングの仕組みを構築 (8)事務局の体制 →専門性の高い業務につき、院内他部門からの異動による医療職の配置等	・事務局体制については、H22年4月に院内他部門からの異動により医療職の配置を行ったところであり、プロパー職員の採用は、病院の経営状況を踏まえつつ検討する。  ・物流関連業務(滅菌・SPD・医療機器保守点検/整備・管理業務)については、医療の質及び安全の確保のため、現状のサービス水準を維持する。また、設備管理業務・外構施設保守管理業務については、引き続き、低コスト仕様への変更など、管理コスト縮減に努める。												
(4)その他の経費等	・光熱水費の節減	・電気・ガス・水道の使用量の減(前年度以下)	・コ・ジェネレーションシステムの効率運用 ・植栽への灌水方法の見直し ・未使用時間が多い部屋の照明、空調を点検(個別対応可能な部屋) ・職員や患者さんに協力を呼びかけ(院内LAN、ステッカー貼付など)	・コ・ジェネレーションシステムの運転切替え(電気・ガス) ・灌水装置の改良(自動→手動操作) ・警備員の巡回による消灯・空調確認、点灯時間見直し、使用電球の検討等	・照明・空調設備については、日常的に点検、見直しを行うとともに、水道についても、植栽への灌水方法の見直しなどの節水の取り組みを実施した。 また、電気についても、コ・ジェネレーションシステムの効率的な運転によりガス使用量の抑制に努めた。 ★上半期の使用量及び金額( )は前年度比 電気 3,974kwh(13.3%) 44,789千円(4.3%) ガス 745千m3(▲8.2%) 45,152千円(▲7.8%) 水道 65千m3(▲0.6%) 34,452千円(▲2.3%) ※下水道使用料含む												
	・検査の標準化など、治療・検査の見直し	・検体検査委託料の抑制	・セット検査の発注項目数を調査し、個別に協議	・調査データに基づき個別に協議(継続実施) ・上半期 患者1人当たりの生化学検査(I)実施項目数(件)	・一定の項目数以上に検査を行っても診療報酬に反映されない生化学検査(I)等については、患者一人当たりの実施項目数は減少しており、定期的な調査と指導を継続する。												
				<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22</th> <th>H21</th> <th>H22-H21</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td> <td>3.12</td> <td>3.27</td> <td>▲0.15</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>3.28</td> <td>3.55</td> <td>▲0.27</td> </tr> </tbody> </table>		H22	H21	H22-H21	入院	3.12	3.27	▲0.15	外来	3.28	3.55	▲0.27	
	H22	H21	H22-H21														
入院	3.12	3.27	▲0.15														
外来	3.28	3.55	▲0.27														
(5)医療機器等の整備	・医療機器の計画的な整備	・必要性、導入効果等を勘案し、計画的に購入	・更新対象機器の状況、診療上の必要性、収益見込み、財源等を考慮の上選定	・医療機器整備委員会を定期開催し、必要性、価格等につき検討の上、優先順位を決定  ・H22年度→超音波診断装置、心電図ファイリングシステム、血管造影画像ファイリングシステム、受付関連システム等	・新病院開院から7年目を迎え、今後、耐用年数が経過した機器の更新が次々と発生するため、繰入金等の財源確保に努めながら効果的に整備を行う。												
	・総合医療情報システムの更新時期の見直し	・機器の一部更新 ・システム更新(H23)	・事業者の選定、ならびに更新に向けたの内部調整	・事業者の決定(6月) ・システム更新に向けた院内各部門の調整と準備作業	・新システムについては、引き続き情報システム更新プロジェクト委員会を中心に作業を進める。												
(6)施設の整備	・診療局増設工事(H21年度) ・その他の改良工事	・施設の安全性・機能性の維持向上	・工事の必要が生じた場合、緊急性、実施効果、財源等を精査の上決定	・H22年度→総合医療情報システム等の更新に合わせた院内LAN設備の改良、及びその他の必要な工事	・病院の安全性・機能性を維持向上させることにより、医療水準と患者サービスの向上に努める。												

※「実施状況」欄における「進捗率(%)」は、改革プランで設定した平成22年度の年間目標に対する上半期の実績の割合。

※「取り組みの評価・課題等」欄における「前年度」の実績は、特に注記が無い限り、前年度上半期の実績。

「H22-目標」は、上半期の実績と改革プランの年間目標との差。また「H21」は、平成21年度上半期実績。

3. その他の取り組み

改革プランの項目	取り組み内容	目標値又は目標とした状況	進捗に至る具体的な方法など	実施状況	取り組みの評価・課題等
(1)医療安全対策	・医療安全に向けた継続的取り組みの計画と実践	・院内巡視活動の充実 ・職員への周知・啓発のための定期的な活動	・院内セーフティラウンドの実施(6月～2月、計18回) ・医療安全講演会(年2回) ・院内の標語掲示(月1回) ・医療安全全国共同行動への参加 ・医療安全推進マニュアル改訂版の発行	・院内ラウンドは6月以降、毎月2回実施 ・医療安全講演会を開催(7月23日) 「医療現場におけるリスク・マネジメント感性と実践」 ・標語は毎月電子カルテシステムに掲載 ・医療安全推進マニュアルを改訂(4月)	・計画に従い進んでおり、継続して取り組む。 ・第2回目講演会は2月に開催を予定している。
(2)医療情報・経営情報の公表	・経営情報の病院ホームページへの掲載	・医療・経営情報のホームページへの掲載	・H21年度の收支、患者数、取扱い疾患等のデータをホームページに掲載	・H21年度の患者数、手術件数、収支状況等の情報を掲載済み(7月、10月)	・ホームページ中の「統計資料」のページ、並びに「八尾市立病院改革プラン」のページに掲載を行った。
(3)患者さんの声の反映	・患者アンケート(全般)の実施・公表	・アンケートのホームページへの掲載	・患者満足度向上に向け、毎年度実施するアンケート結果をホームページに掲載	・12月に掲載予定	・H22年度の調査は12月に実施を予定している。
	・接遇の向上	・マニュアル改訂版の発行	・接遇向上に向け、職員対象に研修会を実施  ・利用者からの意見に対する対応	・研修会「患者接遇に必要なコミュニケーション」(4月16日) ・投書箱に寄せられた意見に対する対応を院内に掲示(対応を公表することが必要と判断したもの) ・接遇強化月間の設定による接遇の意識向上(10月実施)	・計画に従い進んでおり、継続して取り組む。
(4)PFI事業者の経営支援機能の強化	・収益向上、患者サービス向上、コスト削減の取り組み	・患者数・診療単価の増による医療収益の増加 ・材料費・経費等の抑制	・医療収支分析、DPC分析システム等を活用した収益向上の提案 ・材料調達に係る交渉強化、空調の見直し等  ・市立病院のPR	・SPCによる毎月のデータ入力、DPCワーキングチーム等での改善提案⇒1-(9)診療報酬への反映 ・コスト削減⇒2-(2)材料費、2-(4)その他の経費等 ・マネジメント機能⇒2-(3)PFI事業の検証 ・開院60周年記念事業実施への支援、市民医療公開講座の企画運営、病院ホームページ、パンフレットのリニューアル等	・SPCの活動については、PFI事業の検証結果を踏まえ、毎年度SPCが提出する事業計画について、その進行管理を行うモニタリングの仕組みづくりを行うなど、マネジメントの改善に向け取り組んでいる。 ・市立病院のPRについては、これまでの取り組みに加え、SPCにより「市立病院だより」を作成し、市政だより12月号、1月号と合冊で発行する。
(5)労働環境・勤務条件の改善	・ワークライフバランスの充実のための多様な勤務形態の検討  ・認定看護師の職場環境の整備 ・早期復帰支援	・多様な勤務形態の導入、産休等からの早期復帰支援による人材確保  ・認定看護師の職場環境の整備	・多様な勤務形態として、育児短時間勤務制度の実施  ・認定看護師の活動日の確保	・育児短時間勤務制度の実施に向けた関係機関との協議 ・週1回の活動日の確保 ・早期復帰支援(保育所入所に向けての案内配布)	・多様な勤務形態の導入については、職場定着促進、人材確保の面から、引き続き検討を進める。 ・認定看護師(現在は3人)の活動の機会を確保することにより、医療の質と収益の向上に繋げる。
(6)TQM活動の推進	・TQM活動による職場の活性化、職員の意識改革	・職場・職種を超えたTQMグループの結成と活動	・研修会の実施、グループ登録、活動発表会	・研修会(6/13)、ヒアリング(9/17、11/16) ・H22年度登録グループ⇒15グループ	・15グループが登録され、医療の質の向上、患者サービス向上、コスト削減などの分野で活動している。(2月に発表会開催予定)
(7)病院機能評価の更新	・病院機能評価の最新基準の受審(バージョンアップ)	・認定の更新 Ver.4(H15年8月)⇒Ver.6	H21年度実施済み(H22年1月認定)	同左	同左

4. 改革プランの点検・評価

改革プランの項目	取り組み内容	目標値又は目標とした状況	進捗に至る具体的な方法など	実施状況	取り組みの評価・課題等
改革プランの点検・評価	・「八尾市立病院改革プラン評価委員会」の開催	・年1回以上	・八尾市立病院改革プラン評価委員会の開催(第2回、第3回委員会)	・第2回評価委員会開催(7/2) 内容⇒上半期の業務状況及び改革プラン実施状況の評価 ・第3回委員会は12月21日に開催予定	・院内の経営健全化推進会議(収益部会・費用部会)において進行管理を行うと共に、年2回、外部委員の参加のもと、評価委員会を開催する。